

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176501839		
法人名	株式会社カネネットふれあい		
事業所名	ふれあい多居夢 大宮		
所在地	埼玉県さいたま市西区植田谷本前通461-3		
自己評価作成日	平成23年1月11日	評価結果市町村受理日	平成23年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.fukushi-saitama.or.jp/saitama22/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 埼玉県介護支援専門員協会
所在地	埼玉県さいたま市浦和区仲町2-13-8 ほまれ会館3階
訪問調査日	平成23年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者とスタッフが家族のように親身に関わることで、お互いに信頼感が生まれ、より良いケア、家族的なケアが提供できていると思います。また、スタッフも認知症という疾患をお持ちの御入居者に対して非常に前向きな姿勢で向かい合うので、有している能力を発揮しやすく、安心した生活を送ることができていると思います。建物の設備に関しても、大きな台所で御入居者とスタッフが共に活動しやすく、和室というくつろぎの空間もあり、日々の生活に申し分ない環境です。施設周囲の環境も恵まれており、晴れた日にはリビングから富士山が望めますし、歩いて3分の自治会館では、季節ごとの行事が催されます。今後も、ひとつの家族としてのグループホームケアを継続していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街の一角に位置し、田園が広く見渡せるテラスからは、富士山も見ることが出来る。テラスのガラスには、「富士山が見えます」と張り紙がしてあり、利用者にも配慮されている。キッチンも広く、利用者数名が調理場に入っても十分な広さが確保されている。また、周りが見渡せる造りとなっている為、キッチンの中から、リビングで寛いでいる利用者の姿も確認できる。職員と共に利用者がいきいきと調理している姿が見られた。掃除も行き届き、とても清潔な感じを受けた。法人理念に基づいて、職員全員で作られた事業所理念は、新任職員にもしっかりと伝えられており、日々の中で振り返りが行われ、利用者のケアに活かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員が意見を出し合って作成した理念を業務に入る前や各会議毎に確認し合い、実践に繋げている。	事業所理念は、職員全体で話し合い作成されたものである。毎日の業務前やフロア会議・業務会議等で読みあわせを行い意識の統一を図っており、日誌にも理念を載せ、ケアに活かせるよう配慮している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、行事への参加や資源回収の協力をしている。また、近隣の保育園との交流もあり、行事に参加したり、園児をホームに招いたりしている。	自治会館が近くにあり、地域の行事に参加され、子ども会の資源回収への協力も行っているが、事業所からの積極的な地域交流への働きかけもあると良い。	今後はさらに自治会との連携を深め、地元の人々との交流が増すことで、地域に開かれた事業所であるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民代表が出席する運営推進会議でホームの状況、支援の方法等を報告し、理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、事業所の活動状況を報告している。その中で外部評価の結果、今後の目標や課題を報告している。また、地域の方の参加で近隣行事に参加する機会が増えている。	民生委員・地域包括支援センター・家族そして自治会の福祉担当者が参加している。議題は事業所からの報告が主になっている。市に出席要請をしているが実現していない。	地域福祉の情報や介護情報を得ることで、会議の活性化が予測される。報告が主となっているが、忌憚なく話し合い学べる場として、更なるサービス向上に向けた会議となることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の入居者に対して、市の担当者が定期的に面会され、連携している。	高齢福祉課の担当者が来訪する機会があり、連携をとっている。市への相談は随時行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に設置している身体拘束廃止委員が積極的に会議を開催し、その内容を全スタッフに報告している。スタッフ1人1人も日頃から意識を高め、身体拘束をしないケアを行っている。	身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束だけでなく、言葉や態度による拘束についても話し合いを行い、注意する意識付けを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修等で学んだことを毎月のフロア会議で伝達し、スタッフ皆で確認、理解し日常のケアについて振り返り、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会はなく、理解できているスタッフは殆んどいない。今後、必要に応じて活用できるように学びの場を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が時間をかけて十分に説明して理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族には、ご意見箱を設置して要望や意見を随時受け付け、来訪時にも意見等を伺っている。御入居者には、定期的にアンケート形式で意見や要望を伺う工夫をしている。	意見箱が設置してあるが、投稿される意見は少ない。別に、家族へのアンケートを年に2回行っている。	アンケートをとるなど努力がなされているが、発言できる環境作りの工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員には距離感が無く、意見や提案をしやすい環境になっている。代表者へは定期的な面接の際に意見を伝えている。	管理者と職員間は、話しやすい環境となっており、意見提案等を受けている。法人代表者と職員との面接も年に2回行われており、職員の意見や要望を聞く機会を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者面接が定期的であり、スタッフの意見・要望を聞いている。また、入居者とも関わりを持ち、事業所内の状況把握をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人の研修が行われ、常勤や非常勤に関わらず順次、参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の研修以外では、業務内で研修等に参加するのが難しく、同業者と交流する機会は少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査等で御本人や御家族と関わる機会を作り、要望や意見、不安等を理解している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が来訪された際には、必ず、お話を伺い、要望等があれば聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の段階で御家族等と十分に話し合い、御本人や御家族が必要としていることを把握できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や掃除、買い物等、御入居者と職員が協力して活動し、家族のような関係になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族への相談や報告は、来訪時の他、必要に応じて、その都度行い、御本人にとって最善の方法と一緒に考え、支えあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族だけでなく、昔の同僚や、友人知人も気軽に面会に来ていただいている。また、御本人と一緒に外食されることもあり、関係の継続のため、サポートしている。	友人や家族との外出支援を行っている。その際の体調や注意点を申し送っており、大切にしている。また、入居前から通っていた生花の先生が、事業所に月1度来所し、生花を教えてくれている例がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御入居者同士の関係に気を配り、必要に応じて介入し、良好な関係を築けるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで看取りをした方の御家族とスタッフで故人の思い出を語る機会があったが、他は御家族から連絡等が無ければ、関わる機会は少ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御入居者の要望には、出来る限り沿うように努めている。希望等が上手く伝えられない方には、スタッフ間で話し合い、御本人の立場に立って考え、検討している。	フロア会議・カンファレンスは居室担当中心に話し合いを持っている。希望等を伝えることの困難な利用者は、アセスメントを参考に家族の話聞き、日常の様子から汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使い慣れた家具や食器を持参して頂いたり、御本人や御家族から話を聞いたり、情報を収集し、その方その方のライフスタイルの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の申し送りやフロア会議等で、生活の流れや心身状況を各スタッフが把握し、日々の対応に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人と御家族の意向や、フロア会議でスタッフが話し合ったことを反映させ、計画作成担当者、居室担当を中心に、介護計画を作成している。	職員からの情報やアセスメントを基に、居室担当を中心としたカンファレンスを月に1度行っている。状態が変化した時等は、家族に連絡・説明し、介護計画の変更の了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの内容を詳細に記入し、業務に入る前に確認して情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族の都合がつかなければ、通院や個人の買い物、郵便物の投函等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や近隣の保育園の行事に参加したり、保育園園児をホームの催しに招いたり、地域との関わりを積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	既存のかかりつけ医に加えて、24時間対応の医療機関の協力も加わり、さらに充実した医療体制で支援している。	以前からのかかりつけ医への受診は、希望を基に家族が対応を行っている。往診医や訪問歯科も受け入れており、往診医とは24時間の医療連携ができています。緊急の際は、職員が受診の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連絡ノートを作り、相談や情報共有に役立て、医療機関との連携をスムーズに行えるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、御家族や病院関係者と、随時、情報交換し、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化があった際、必要に応じて御家族や、かかりつけ医と話し合いを重ねている。また、状態に合わせて、緊急対応マニュアルを作り、対応できるようにしている。	家族や医師の協力で、現在まで3件の看取りを経験している。マニュアルを作成し、職員の不安を軽減できている。入居時には本人・家族の思いを把握している。状態の変化があったときは、受診の際家族が立会い、話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや入居者それぞれの既往歴や内服薬等が記されたファイルがあり、スムーズに対応できるようになっている。応急手当等の訓練は消防職員に講習を依頼している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、御入居者、職員で消防訓練を行っている。その際は、消防職員にも参加いただき、指導を受けている。	避難訓練は年に2回行い、内1回は夜間を想定している。また、昨年3月にはスプリンクラーの設置が終了しているが、自治会への夜間協力の呼びかけや、地域消防団への呼びかけに留まっている。	災害時、事業所としての役割を持ち、近隣との相互協力体制の確立に取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせた声掛けや対応を行い、周りの状況にも目を配り、御本人のプライドを傷つけないように配慮している。	日常から、理念に基づいた言葉遣いができているか注意を喚起し、職員への意識付けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるような声掛けをし、希望に添うようにしている。表出が困難な方の場合、日常の会話の中からヒントを得て行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく御本人の希望に添って散歩や買い物、入浴等、その日の過ごし方を、その方のペースに合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の好みや、今までの習慣を大切に、服装や化粧等、お気に入りの身だしなみを継続して頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御入居者が食べたい物や作りたい物を、スタッフと一緒に調理し、楽しんでいただいている。	利用者が数日前から献立を立てて、予定を決めたり、得意料理やおやつ作りを楽しめるような支援をしている。カロリーや塩分糖分制限・アレルギー等は栄養士の助言を基に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量のチェック表を活用し、制限のある方や、太り気味の方の摂取コントロールをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己管理が可能な方には、食後に口腔ケアの声掛けをし、その他の方には、見守りや一部介助をしながら口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合わせ、トイレの声掛けをしたり、日中の失禁が少ない方には、夜間のみ、その方の尿量に合わせたパットを使う等、臨機応変に対応している。	排泄チェック表をつくり、一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレへ誘導し自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後に冷水を飲んで頂いたり、オリゴ糖、乳製品、イージーファイバー等を使用し、なるべく薬剤に頼らないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いせず、入りたくなるような声掛けや、タイミングの工夫をし、気持ち良く入って頂けるようにしている。	ゆず湯や菖蒲湯など季節に合わせて楽しんでもらっている。入りたがらない場合は手洗いから誘導したり、タイミングを見計うなど工夫し入浴への誘導を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠に繋げるように、日中は家事や外出等、御本人に合った活動をして頂いている。また、その日の状態によって、昼寝や休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、用量や効能がわかりやすく表記されており、変更時は内容を変更し申し送り、スタッフが把握できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人の好みに合わせ、家事をして頂いたり、買い物に同行して頂くなどして、充実感を持って頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日、散歩や買い物に行っている。その他、ドライブや御入居者全員での外出も行っている。	ドライブが好きな利用者が多いため、ほぼ毎日出かけている。 事業所の周囲を散歩したり、以前からの行きつけのお店で食事をするなど職員が支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できないが、お金を持つことで安心される方には、使い慣れた財布にお金を入れ所持して頂いている。管理が可能な方は、嗜好品等を購入するために所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や小包の依頼があれば、投函を援助している。電話の希望時には電話をお貸したり、携帯電話を持っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	要望に合わせ、照明や室温をこまめに調節したり、趣味で作られる季節の貼り絵や行事の写真を掲示して、明るく快適に過ごして頂けるようにしている。	共有空間が広く、明るくくつろげる空間となっている。ベランダにベンチが括り付けられ、天気の良い日は日光浴や足浴にも利用している。室内には利用者の活けた生花や貼り絵などが掲示してあり、楽しめる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お気に入りのソファで気の合う方と日なたぼっこや談笑されたり、和室でくつろいだり日課の洗濯物をたたんだりされ楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、お気に入りの品、服等を使って頂き、家具の配置も御家族や御本人にお任せし、使いやすく、居心地が良いようにして頂いている。	利用者・家族と話し合い、本人の使い慣れたベッドや筆筒等、また、手作りの作品等も持ちこんでもらい、作品作り継続についても支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態や習慣に合わせて、安全に自立して活動、行為が出来るに環境整備している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	自治会行事や近隣の保育園等、地域との定期的なつきあいがあるが、さらに地元の人々との交流を持ちたい。	定期的な行事等だけでなく、日常的に地域に開かれた事業所を目指す。	①行事以外にも自治会報をもとに事業所として出来る範囲の役割を持つ。 ②自治会主催の近隣住民参加のサロンで介護や認知症に関する懇談の場を頂く。	12ヶ月
2	4	運営推進会議において、事業所の報告が主となっている。	参加者の率直な意見や地域情報を基に、さらなるサービス向上と繋がる会議を目指す。	①参加者に事前に議案等の話し合いたい内容を提案してもらう。 ②会議内で事業所の報告以外に率直な疑問や質問をいただく時間を設ける。	12ヶ月
3	35	災害時の対策において近隣住民への呼び掛けをしている。	事業所としても近隣に対して相互の協力関係を築きたい。	①地域や近隣で定期的に行っている防災訓練等に出来るだけ参加する。 ②事業所として地域の防災に協力出来ることを教えていただき、相互に協力する。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。